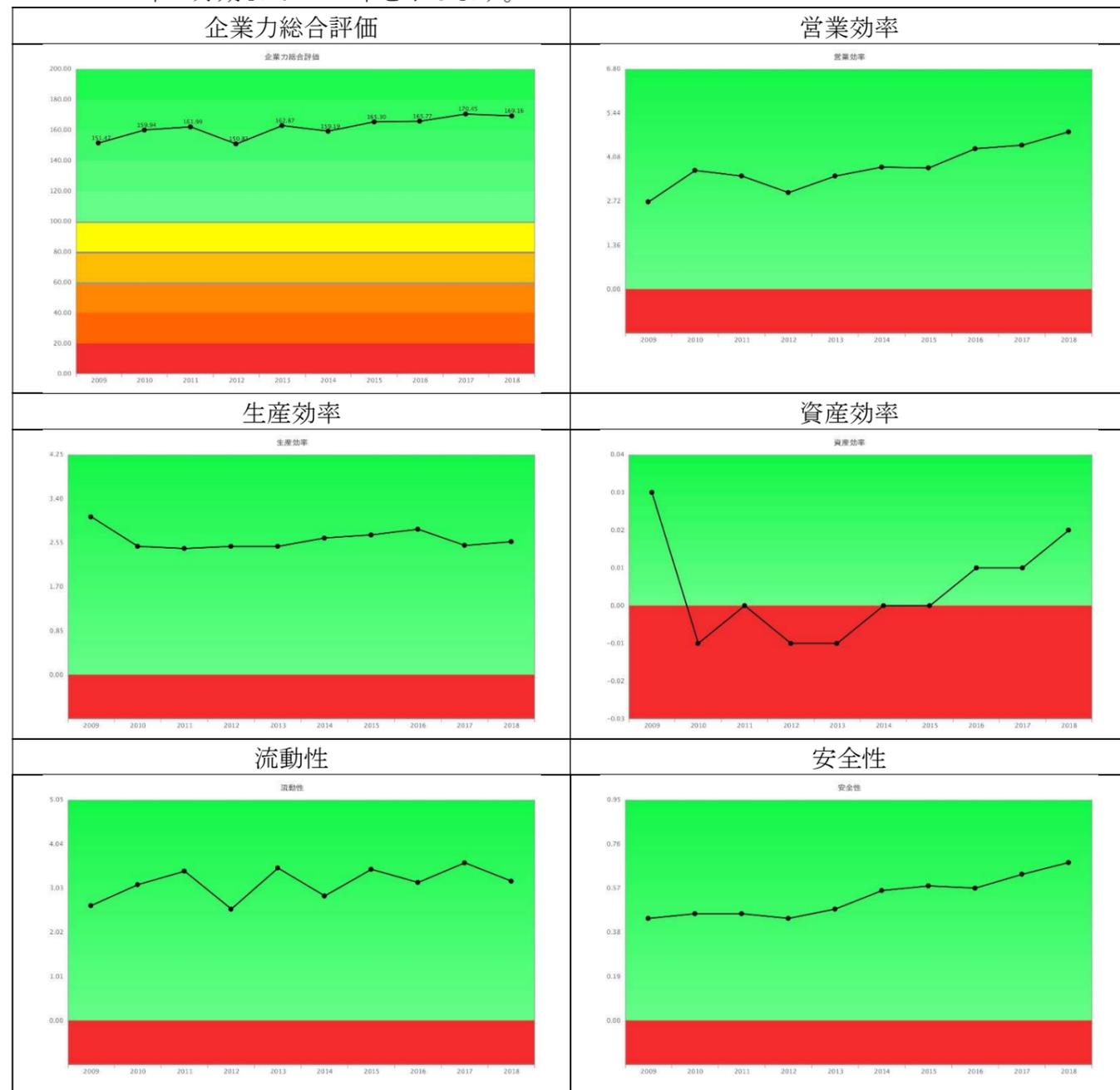


今回は、1661 年（寛文元年）千葉県野田で醤油醸造を始めた醤油メーカー、キッコーマン株式会社を分析しました。今年で創業 357 年の老舗はどんな経営をされているのでしょうか。

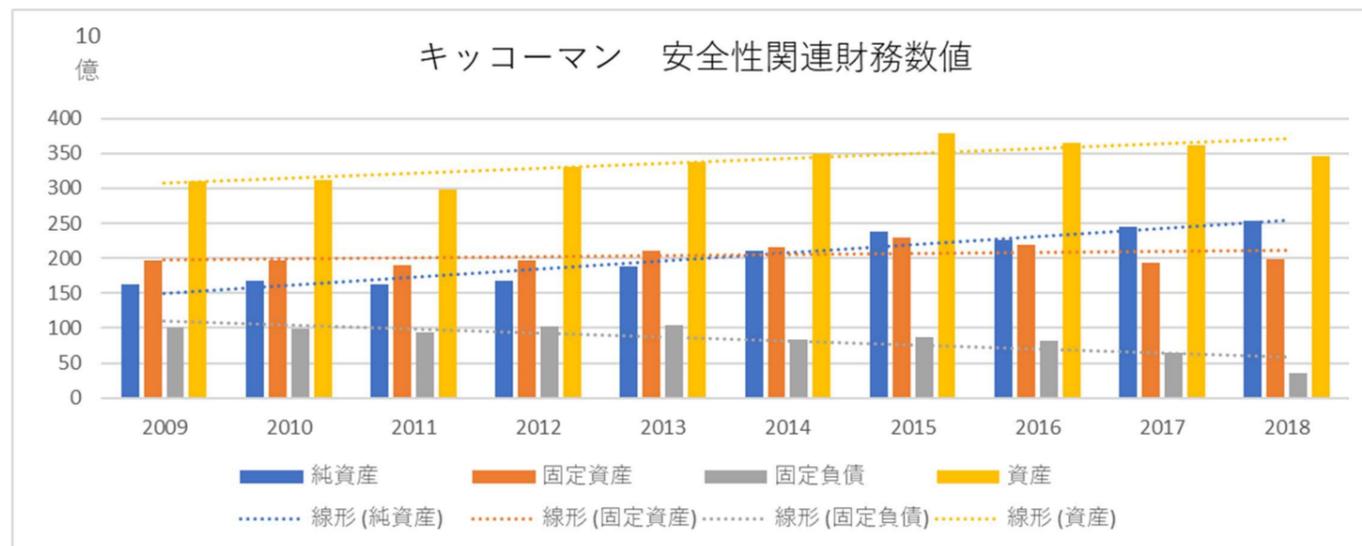
2009～2018 年 3 月期までの 10 年を示します。



企業力総合評価は緩やかな成長トレンドです。営業効率・生産効率・資産効率・流動性・安全性の下位親指標で形状が似ているのは安全性です。営業効率も似ていますが、より安全性が似ています。

キッコーマン(株)の成長を決定づけているのは安全性といえるでしょう。

安全性の下位指標を構成する財務関連数値を見てみましょう。



時系列で見れば、資産額がじわじわ増加すること、財務体質改善を目指すため固定負債が減少、純資産増加は理解できます。

面白いのは、固定資産がほぼ 10 年横ばいであることです。

単位：10億円

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
純資産	162	167	163	167	188	210	238	226	244	253
固定資産	198	197	189	198	211	216	229	219	194	199
固定負債	100	98	95	103	103	83	87	82	65	36
資産	311	311	299	331	338	349	379	366	361	347

固定資産の内訳は、建物や機械などの有形固定資産、のれんやソフトウェアなどの無形固定資産、投資有価証券や出資金、長期貸付金などの投資その他の資産です。大まかには投資額を示しております。数字で示しませんが、有形固定資産は減価償却しますから、新たに投資しなければ金額は減っていきませんが、キッコーマンは減っていません。投資その他の資産もじわじわ増加しています。M&A をする会社にみられる無形固定資産増加はなく、むしろ減る一方です。投資はするけれど、堅実に身の丈以上はしないようです。

損益計算書は手足・短期を示しますが貸借対照表は顔・長期を示します。350 年超続く企業は、短期的な成長ではなく、長期に成長しようとしています。それが企業力総合評価と安全性の相似となって表現されたのでしょうか。安全性指標は貸借対照表から作られます。

### まとめ

投資をどんどんして売上を追い求めて攻めて攻めて攻めたおす会社が目立ちますが、成長は必ずしもそれだけではありません。

多様な成長パターンがある中で、自社が今どれを採択すべきか見極める必要があるのではないのでしょうか。

**編集後記** 人間は不利よね、長期なんて年取る一方だもの！と負け犬の遠吠えをするワタシ

(^\_^)☆ **文責**

〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-6-19 プロパレス安土町ビル 7 階 D 号 株式会社 SPLENDID21

tel 06-6264-4626 ✉ info@sp-21.com

<https://sp-21.com>